

3. カリオスタットによる乳臼歯隣接面のウ蝕活性度について

○緒方 克也，板家 隆（福岡市・開業）

乳臼歯隣接面に好発するウ蝕は，臨床上コントロール困難な乳歯ウ蝕とされている。このウ蝕に対して種々の予防も実施されているが，確実なウ蝕予防効果をあげるには至っていない。そこでわれわれは，この乳臼歯隣接面のウ蝕予防の手掛りを得るために，第1，第2乳臼歯隣接面のウ蝕活性度をカリオスタットを用いて検知した。

対象は，2才から6才までの当小児歯科医院を訪れた健常児，肢体不自由児，精神薄弱児であり，それぞれを非ウ蝕罹患者群とウ蝕罹患者群とに分けた。ウ蝕活性度の検知にはカリオスタットを用い，非ウ蝕罹患者群では，上下顎，左右の臼歯部隣接面のプラークをデンタルフロスにて採取し，通法によって綿棒でプラークを採取した場合の結果と比較検討した。また同群では，隣接面にフッ化ジアミン銀を複数回塗布した後と以前の結果についても比較した。

一方，ウ蝕罹患者群は，第1，第2乳臼歯隣接面の一方に，充填処置を施した例について同様にデンタルフロスを用いて検体を採取し，カリエスフリー群，フッ化ジアミン銀塗布群と比較した。

なお，カリオスタットの判定は，48時間後に通法の色別判定で行ったが，同時に東洋ろ紙社製のPB試験紙，BTB試験紙を用いてカリオスタット培養液のpHの測定も行い参考にした。

以上，乳臼歯隣接面のウ蝕活性試験の結果より知見を得，乳臼歯隣接面ウ蝕予防の実際について考察，検討したので報告する。